

服藥而死

おもひかねてや、數日食を斷て身まかるといへり。

〔日本靈異記〕中特己高德刑賤形沙彌以現得惡死緣第一

親王屋○長 自念无罪而被囚執此決定死爲他刑殺不如自死即其子孫令服毒藥而絞死畢後親王服

藥而自害

〔日本後紀二十一〕嵯峨弘仁元年九月己酉藤原朝臣藥子自殺藥子略○中知衆惡之歸己遂仰藥而死

〔太平記十九〕金崎東宮并將軍宮御隱事

尊氏卿直義朝臣大ニ怒テ略○中此宮恒親王 是程當家ヲ失ハント思召ケルヲ知ラデ若只置奉ラ

バ何様不思議ノ御企モ有ヌト覺レバ潛ニ鳩毒ヲ進テ失奉レト粟飯原下總守氏光ニゾ下知セ

ラレケル略○中春宮御手ニ取セ給テ抑尊氏直義等其程ニ情ナキ所存ヲ插ム者ナラバ縱此藥ヲ

ノマズ共通ベキ命カハ略○中命ヲ鳩毒ノ爲ニ縮テ後生善處ノ望ヲ達シニハシカジト仰ラレテ

毎日法華經一部アンバサレ念佛唱サセ給テ此鳩毒ヲゾ聞召ケル將軍ノ宮成親王 是ヲ御覽ジ

テ誰トテモ懸ル憂キ世ニ心ヲ留ベキニアラズ同ハ後生マデモ御供申サンコソ本意ナレトテ

諸共ニ此毒藥ヲ七日マデゾ聞召ケル聽春宮ハ其翌日ヨリ御心地例ニ違ハセ給ケルガ御終焉

ノ儀閑ニシテ四月延元 十三日ノ暮程ニ忽ニ隱サセ給ケリ將軍宮ハ廿日餘マデ御座アリケ

ルガ黃疸ト云御イタハリ出來テ御遍身黃ニ成セ給テ是モ終ニ墓ナクナラセ給ニケリ

〔小右記〕寛弘二年四月八日乙酉於陣左府藤原 被談云興福寺雅敬日來在讀經而昨食茸今日醉

死弟子一人同食死者又見今昔物語二十八

〔倭訓栞後編八〕志しんぢう 男女死を共にするをいふ心中と書れど實は不心中也明には并命と

いふとぞ

〔類聚名物考 人事九〕雙斃 心中しんぢう 相對死

相對死

辭茸而死